

田原町立田原福祉専門学校後援会機関誌

たっぶく だより

6

編集発行 平成15年3月1日

田原町立田原福祉専門学校後援会
会長 川澄春男



「たっぶく祭」で歌う美咲 純さん(第3期卒業生) - 関連記事2ページ -

考える力



専任教員
廣田 直子

十七年前、保健師になることを目指して大学の門をたたきました。卒業後も看護や地域保健にどっぷり漬かり、その当時、福祉や教育についてほとんど考えた事ありませんでした。このような私が、縁あって介護福祉教育の現場に身を置くようになり、早五年がたつとしています。今では二十四時間、学生や介護福祉について考える日々を送っております。

今改めてこの過程を振り返ると、大学時代、ある先生からいわれた言葉が私の物事に対する考え方や向かい方の基盤を作り、現在の職業生活を支えているように思います。「どうすればよいかわからなくても、どのようにすればそのことがわかるようになるのかを、自分で調べ考える力をつけなさい。」現在この言葉が、私の考え方を大きく広げてくれています。そして、恩師の教えを引き継ぐかたちで、今度は私自身が、考える力をもった介護の専門家を育てようとしていることに不思議な縁を感じる。

(2ページ下段へ続く)

この人に聞く

今回、異色の卒業生、現在プロ歌手「美咲純」として活躍されている、三期卒業生戸田純子さんにインタビューしてきました。

Q 現在どのような活動をされていますか。

A 地元豊橋を中心に各種歌謡ショー、健康ランドなど様々なイベントに出演しています。最近では蔵王苑の文化祭、田原福祉専門学校の学園祭で歌わせていただきました。
Q 母校でのステージはどうでしたか。
A 後輩の前で歌うのは照れますね。でも皆さん熱心に聴いて下さり、とてもうれしかったです。



母校で歌う戸田純子さん

Q 「美咲純」という名付けの由来を教えてください。

A 美は歌の他に太鼓もやっています。「山口記予子と美唱陣太鼓」のメンバーです。その太鼓の先生、山口記予子さんに名付けてもらいました。「美咲」の「美」は美唱陣太鼓からとりました。「美しく咲く」とても良い名前をいただきました。

Q ところで、専門学校卒業後福祉の道へ進まず歌手になられたわけですが、それはまたどうしてですか。

A 福祉の仕事に就きたくて専門学校に行つたのですが、在学中にカラオケ喫茶で音楽関係者に出会い、「歌を出してみないか」と声がかかり、一年間悩みました。大好きな歌の道に進みたいけれど、歌手になれば福祉の仕事はできなくなる。家族とも相談し子供の頃からの夢である歌の道に進もうと決意しました。

Q 夢である歌手にとつとつなつたわけですが、プロの世界はいかがですか。

A 現実には厳しいですね。特に先輩・後輩の上下関係が厳しい。もともとマイペース主義の私は、人に仕切られたくないという思いが強かったのですが、現実には自分を殺



「美咲純」のポスターの前で

して我慢しなければならぬことが多いです。

Q 表の華やいた世界と違い、裏ではご苦労も多いようですね。それは最後に今後の抱負と、在校生に一言お願いします。

A 私は皆さんの身近な歌手でありたいと思つています。私が歌を披露することにより、皆さんに楽しい時間を過ごしてもらいたいです。私は歌を選び介護福祉士としての仕事はできませんが、歌で奉仕していきたいと思つています。今後福祉施設への訪問を続けていきたいです。今後お年寄りが増えていく世の中介護福祉士は、絶対に必要な人材です。福祉の道を選んだ思いをつらぬいて頑張つてほしいと思つています。

(聞き手 杉浦・石井)

(前頁より)

じます。最近、このような教えの連鎖が「教育」というものではないかと考えるよつになりました。そして、教員の発した何らかのメッセージが学生に引き継がれ、学問が進化していくのではないかと思つています。

現場経験を積むなかで私は、知識を得ること、それを生かす能力は別なのではないかと感じていました。講義のなかでも「目的をもって起こつた現象を観ること、そして何が大切かを考えること」といい続けてきました。専門的な「知識」と「智慧」との区別を明確に認識し、両者をバランスよく蓄積できる者こそが質の高い専門家といえるのだと思います。

介護の質や専門性が厳しく問われる今こそ、実力を備えた「考える介護福祉人」を社会に送り出すことが養成校の役割であると確信し、教育に励んでおります。

本校は新設校といわれた時代を経て、伝統を築きつつある専門学校として卒業生の力で歩き始めようとしています。縁を結んだ皆さんも、今後、人間としての深みや豊かさを付加し、正しいとされてきた知識や技術に固執する介護福祉士ではなく、高い倫理性を持ち、自ら科学的に学問を創つていく専門家となれることを願つております。

今日は二期生の柴田美代さんに、お話しを聞きました。柴田さんは豊橋の小規模作業所『がんばるっぺの家』で指導員として働いています。

Qそれでは、初めに作業所の内容を教えてください。

A作業を中心に、朝は朝の会をしながら体操もしています。午前、午後ともに休憩があり水分補給や排泄介助をしています。午後は作業だけじゃなくて、生活体験として例えば買い物に行ったりもします。

Q作業所の現状について教えてください。現状の問題点とか？

A作業所っていつでも民家を間借りしてるんですよ。どんどん仲間が増えて、ボランティアさんいっぱい係わってくださいって、場所がちょっと手狭なんですよ。定員が十名で、指導員二名分の補助金しかないの、とてもそれではまわらない。多いときで仲間は十二名います。パートさんに来て頂いて、なおかつボランティアさんに毎日何名って来て頂いているんですよ。ただ家から何の意味もなく来るんじゃない。仕事に来ている、目的を持って仕事をしてお金を儲けるっていうのがなかなか難



買い物体験(右 柴田さん)

しいので『資金面がかなり苦しい』場所が狭い、そこを何とかしなくてはいつも思っています。**Q**じゃあ次にボランティアについてはどうですか。

Aボランティアには、本当にいろんな人が係わって下さってます。今は小学校から中学、高校の福祉体験とか職業体験でもボランティアさんの受け入れをしているんです。ボランティアさんには『その人が本当に必要としていることだけを手伝ってほしい』っていうのがありますね。あと、こちらがいいのかなと思って求めたものがボランティアさんに『私こんなことやりにたくないの...』って変な顔され

ると、お互いに気まずい思いをする。だから事前のリサーチはとっても必要なと思います。だからね、今ボランティアさんにはアンケートを書いて頂きます。『どういうことができますか?』『どういうことをやってもいいですか?』って。

Qそうですね。将来どんなふうになっていきたいのか教えてください。

A今、国も県も市もお金がないですよ。でも要望はすごく多い。今一番上の人も二十七歳なんです。が、五年、十年、十五年たつてくると、仲間は勿論、ご両親も年をとっていくんですよ。心身障害者の人たちが一時預りみたいなサービスがなかなか無いんですよ。じゃあお母さんたちが倒れたときにはどうするのかっていう...。グループホームとか入所の施設、そういうことまで将来的に考えていかなければいけないっていうことを思います。

Qはい。では最後に在校生もしくは後輩に何か一言。

Aあのー、理想と現実の違い。その苦しい中で、自分がどれだけ情熱を持って、利用する人たちのために仕事をしていけるかっていうことなのかな。将来のことを考えながら、目先のことを一つずつ考えてっていうのが大切なのかな...それを私は自分に言い聞かせています。

Qありがとうございます。
Aこちらこそ。皆さんこれからもどんどん遊びに来て下さい。

(聞き手 松原渡辺)



読み聞かせをする柴田さん

感動の体験とまごま

学園生活から

凧まつり

今年も昨年に引き続き、田原凧保存会の方のご好意で参加させていただきました。田福の目玉は歌舞伎絵にした大凧です。

今年、アメリカ、ケンタッキー州からバーニー市長一行も来日され盛大に行われました。

当日は天候にも恵まれバーニー町、田福の大凧も共に空高くあげることができ、学生みんなで感動しました。そして、日頃お世話になっている施設の利用者さんにもたくさん参加していただき、学生と一緒に田原凧作りを楽しんでもらいました。

二日目に行われたけんか凧にもチームのみなさんと一緒になって楽しみ、真つ赤に日焼けするほどでした。ほんの二日間ですが一日一日が充実していたと思います。

そして、今年の実行委員、先生には大変な迷惑をかけてしまいました。しかし、一人一人が思いや考えをぶつけ合ったことで今年の凧まつりは大成功を収めることができました。



凧まつりメンバーたち勢揃い

年生は分からないなりに必死でサポートしてくれたので、昨年とは違う今年の田福のカラーになりました。それから学生相談室に飾つてある数枚の凧は、前夜祭の凧のオークションで買っていただきました。全国の凧です。

今年も凧まつりに参加できて本当

によかったです。もし来年もやりた
いと思ってくれたらいいな。



糸を持って凧をあげる参加者

ヨットエイド・ジャパン

七月二十一日、第七回ヨットエイドジャパンが開催されました。昨年までは授業の一環として全員参加していましたが、今年から自由参加ということです。私は以前から障害者スポーツに興味があったこともあり、とても楽しみに参加させていただきました。

レース開始前、参加者で身体に障害のあるNさんと顔合わせをし、ヨットの乗降時・乗船中の介助をさせていただくことになりました。初めての参加ということもあり、どのように介助すればいいのか分からず、最初は不安ととまどいでいっぱい

した。しかしヨットに乗り、周りの方の指導をうけながら介助させていただく中で、少しずつ不安感もなくなり、念願の障害者スポーツを共に楽しむことができました。

私はNさんに特別なことをしてあげられたわけではないけれど、同じ風を感じ快適さを共感できたとき、改めて障害の有無に壁はないと実感することができました。

今回のヨットエイドジャパンに参加して、障害者スポーツを楽しむこと以上に学ぶことがあり、参加してとてもよかったです。また来年もぜひ参加したいです。

田原まつり参加

僕達で三代目になる田福組。

本年度の年番である本町の町中を十四、十五日とみこしで練り歩きました。休憩所では自分達が考えたダンスを踊り、十五日には山車も引かせていただきました。両日ともケガ人もなく、参加してくれた一般生徒と実行委員、学校、地域の方々が一つになり、とても感動しました。

しかし、当日までの準備期間は、とても大変でした。今まで責任ある立場に立つたことがなく、どう指示していいのか、どうしたら皆が動いてくれるのか、何をしたらいいのか



本町通りを練る田福みこしの勇姿

分ならず、先生や実行委員の人に迷惑ばかりかけていました。九月に入り、まつりの準備も忙しくなってきた頃、祭りに参加する生徒が集まらず、本当に止めてしまおうとも思いました。でも実行委員総出でみんなを誘ってくれ、なんとか集まりました。その時、初めて実行委員が一つにまとまった気がしました。

田原まつりを通して、色々考えさせられました。協力して何かを成し遂げた時の感動も経験できました。ときには挫折しそうになったけど、やはりまつりに参加して良かったと思います。

まつりに係わった全ての人に感謝しています。本当にありがとございます。



- たつぷく祭 -

今年のたつぷく祭では「福祉らしさをだそう」ということで、自分達が多様なことを学校で行っているのかを知ってもらうことを中心にイベントを考えました。

校内を回り学校を知ってもらうための校内スタンプラリー、学生による大正琴の演奏、献血車を呼び、献血に協力を呼びかける、授産施設による太鼓演奏など、学校を知ってもらうことと、福祉らしさをだした学園祭でありたいと思いました。

テーマは「虹く人と人・心と心の架け橋」ということで、すべての人を虹のような綺麗な架け橋でつなごうという思いを込め「虹」をテーマにしました。

学園祭当日、模擬店周辺、校内はたくさんの人で埋まりました。施設



たつぷく祭での笑顔

の方も多く来校してくれました。また、園児や高齢者、学生の姿も見られた。

学生自治会の活動

初めまして、田原福祉専門学校学生自治会です。私達は平成十三年九月に結成され、平成十四年四月から本格的に活動を開始しました。

主な活動内容としては、凧まつり、田原まつり、たつぷく祭等の予算の振り分けと、自治会規約の改正を行ってきました。また、自治会主催の企画として、新入生歓迎会の田原町ウォークラリーや学内交流の球技大会を行い、学生同士の友情を深め、強い絆づくりのサポートをしてきました。

学校外部とのつながりとして、田原町で行われているフリーマーケット

れ、たくさんの方の姿を見ることができました。土曜日は雨天のため授産施設による太鼓演奏は中止になってしまいました。本校卒業生歌手「美咲純」さんが歌ってくれ、とても盛り上がりました。最後には模擬店の物が売り切れるほどの大盛況でした。

この学園祭での盛り上がりは学生一人一人ががんばった結果だと思えます。今年のたつぷく祭はみんなの心が一つになった、とても盛り上がった学園祭でした。

トへ参加させていただきました。学生から集めた物を売りに出し、収入を自治会費として、学生に還元しました。フリーマーケットでは、町役場の方や一般の方と触れあうことができ、とてもよい体験ができました。

学生からの意見を聞き、学内の喫煙所を移動することで、学生が心地よく生活できるようになりました。

最後に、平成十四年十月には第三代目の役員も決定し、今後ますます活躍することになる自治会です。これから多方面からサポートを必要とすると思います。ご意見を寄せていただいたり、ご指導をいただきますようお願いいたします。

学校紹介

本校では、開校してから、七年が過ぎようとしています。それとともに、創世紀から新たな一步を踏み出し、更なる発展をしていこうと考えられています。

そのための一つの方法として、平成十四年八月に、田原福祉専門学校の評議会を設置し、第一回目の評議会が開催されました。

これは、本校の安定かつ円滑な運営を図るためのもので、町長の諮問事項を審議します。現在は、田原福祉専門学校の在り方の検討や魅力づくりについて、審議していただいています。

評議会は、会長に川口保夫田原町助役、副会長に高松徹校長、委員として、川添登前校長、露木悦子元副校長、鈴木啓之田原町教育委員会教育長、加藤孝正同朋大学社会福祉学部長、藤城順三前学校運営協議会長の七名です。現在は不在ですが、副校長も就任すればメンバーに加わる予定です。

それに伴い、教職員一同も魅力づくりを考え、すぐできるものから予算要求や条例改正を伴うものなど、検討しています。

平成十五年度から、福祉文化活動

の中の音楽を福祉の観点から一歩進め、音楽療法に変更していきます。

音楽療法とは、音楽の特性を障害の回復や改善などに活用する治療法で、体の機能回復や情緒安定などに一定の効果が認められ、治療に取り入れる病院も増えていきます。指導には、東三河で初めて音楽療法士認定を受けた山口理恵先生が当たります。

当初より本校は、介護福祉の情報発信施設と考え、バリアフリーの生きた教材となっております。今回、さらに校舎南側の入り口にスロープの設置及び自動ドアの設置を行います。

これは、田原町の、人にやさしい街づくりの一環として行うもので、バリアフリーモデル施設として、アプローチも北側正面からばかりでなく、あらゆる方向から高齢者、障害者を含む全ての利用者にとって使いやすい施設にするというものです。

田原町の福祉の拠点としてより一層充実したものになります。卒業式までには完成する予定です。学校にお越しの際にはご覧ください。

平成十四年十月に、開校当時から今まで使用していたパソコンを一新しました。

OSは、ウィンドウズXPになりました。最新のパソコンとともに、

学内グループウェブを新たに導入し、携帯電話のiモードや学外のパソコンから休講や連絡事項が掲示板で確認できるようになりました。また、電子会議室など新たな学内コミュニケーションの場を提供することができたこと、CCDカメラで互いの顔を見ながら通信ができるようになりました。

ITの進歩に伴い、情報化教育もますます充実し、就職活動やまた就職してからもお役に立てるよう環境整備をしています。



新しいパソコンで勉強する学生

お知らせ

後援会総会に合わせて、一期生の同級会を開催します。

- 1.日 時 / 平成15年5月11日(日)午前10時30分から
- 2.会 場 / 田原福祉専門学校講堂(2F)

一期生同級会世話人代表 西野優子(旧姓 内角)

先輩からの一言

母校訪問ノートより

約四か月ぶりの田福
やっぱり学生はみんな若い。これを読んで二期生へ。俺は十二月いっぱい、永生苑を卒業して松本へ転職します。豊橋ともお別れ。田福ともお別れ。こうやってみんなどんどん離ればなれになるんだね。さびしいよ。でも頑張るよ。…… (二期生・藤原崇道)

仕事が一か月休みになり、悩んで学校に来てみました。先生の顔をみて元気になった。……久しぶりに田福に来てよかった。また来るね。
(四期生・塩見)

一年半ぶりに田福に来てみました。他の卒業生のコメントを読んで、みんなそれぞれ元気に頑張ってるなあと思いました。嬉しく感じます。そろそろ、クラス会でも開いて下さい。
(四期生)

「たっぶく祭」お疲れさまでした。実行委員のみなさん、僕が何も資料を残さなくて、大変だったことと思います。僕もそうでしたが、今だにこの二日間を忘れることができない、

一生の思い出だと思います。大切に
とっておいて下さい。

(第五回たっぶく祭実行委員長・渡辺明)

久しぶりに田原へ来ました。なんか嬉しい気分になりました。今年もお祭り参加、ありがと。頑張るみなさんは、やっぱりステキです。……私は、今、沖縄で働いとりやんす。仕事は楽しく、一日一日がすごく大切で、スタッフに育てられ、利用者に育てられ、みんなに育てられています。楽しいことを求めるより、あるもの、その場を楽しめる人になると、何でも楽しくなると思います。全ては自分したい。頑張っていきたい。
(四期生・知花)

卒業以来、久しぶりに学校へ来ました。こっちの方言を聞いて嬉しく思います。仕事は大変、大変続きで体調を崩してしまい、九月で退職しちゃいます。……新しい職場が決まった頃に、また遊びに来ます。同期の子たちも誘って。
(四期生・エリ嬢)

すごく久しぶりに学校に来ました。人も周りも変わってしまい、時間の速さを尻尾のシワとともに感じます。

私の施設は、神奈川県横浜市にある救護施設「大神寮」。今年で五年目、新人から中堅へと移り、求められるものも多くなってきました。学校で習った基礎はとても大切で、どこかにその基礎を持っていないと応用はできないことを痛感しました。……頭ではなく体で覚えるまで学習してほしいと思います。最後に、自分の現在の「立場」をしっかりとわきまえた介護福祉士になって下さい。新人は、所詮新人なのですから。



花束を胸に歌う美咲純さん

「よつこ」と「のぶこ」と「ちさ」と「ヒロコ」です。ヨオ、みんな元気か？

私は元気で充実した日々を送ってますよ。久々に学校に来て、みんなに会えて、とってもHAPPYです。

久しぶりに来たけど暑いです。ヨ最近、歳を感じるよ!!
久しぶりに来たなら。知ってる先生が減ってた。
そうか。みんなよかったネ

お久しぶりです。数か月ぶりに訪れました。話を聞くと、最近三期生の姿を見かけなくなつたようで、寂しく思います。たまには、母校を訪れてみて下さい。何か発見があったり、初心に戻つてみたりするのも良いと思います。
(三期生・高木)

……職員の方へ迷惑をかける毎日ですが、楽しい日々です。私が今やるうとしてるのは、利用者の方の名前を覚えることです。席表を作り、席と名前を確実に覚えることを頑張っているということです。
(五期生・デコリン)

せっかく学校に来たので、トイレ掃除でもしていこうかと思つたら、キレイに掃除してあるので、少しかかりしてしまいました。安心したけど。
(四期生・渡辺)

今日は、田原を満喫するために、めつくくんはうす、サンテパルクに行ってきました。菜の花が素晴らしく、とってもキレイで楽しかったです。そのついでに超久しぶりに田福へ来てみました。ここは相変わらず、何も変わってなくて、ホツとします。仕事で疲れた時に来ると、いい「癒し」



オーナー	柴田 美代
お客様	山田 人巳 松原 宣子 佐藤 義家 嶋本 成子
	石井 理枝 渡辺 恵里 神藤 琢也

オ 皆さんこんにちは。今日は福祉の現場を経て違う道に進んだ人も招いて、いろんな話をしていきたいけど。今、どんなことを感じてる？

客 僕は施設で働いてたんだけど、医学の必要を感じて、今は准看護師の勉強してます。

客 今は終末介護の場面も多いし、医学知識は必要だよ。

客 施設でも、介護士がここまでやっていいのかなと思うような医療行為してるよね。

オ 確かに現場では、なかなかここまでやって線が引けないことが多いかも。



客 僕は他の社会が見たいと思ってるときに『タクシードライバー』っていうビデオを見て、「これだ!」と思って転職したけど、めっちゃ給料が安くてすぐ辞めちゃった。

オ みんなの給与はどう? 満足してる?

客 今不景気だからどこも大変だと思うけど、介護の現場は特に厳しいと思います。

客 介護保険が始まってから施設側の経営も大変みたいだし、就職難の時代だよ。介護の仕事って給料安くないよ!

客 男性の場合は妻子を養わなくてはいけなから辛い。奥さんの協力が必要だよ。

客 職場は働きやすい? 私には自分に自信がなくて、職場をひきこもりになりそう。

客 そう? あなたはいい雰囲気もってると思うけど。仕事ができるばかりが、いい介護士じゃないと思うよ。

客 誰にも個性があるし、相性があるから自分の個性を大切にされた方がいいんじゃない?



私は利用者より、その家族との

係わりが難しい。みんなどう?

客 利用者とその家族の関係を理解することが必要だよ。

客 業務中心の考え方で、利用者中心の考え方があって、よくぶつかることがあります。

客 人手不足や経費削減の中で、利用者中心の考え方がなかなか貫けないよね。

客 みんなジレンマを感じながらも、頑張ってるんだ。

客 そこで耐え切れなくなった人が辞めていくんだよね。

客 福祉の現場を変えていくにはど

うしたらいいのかな?

客 そう言えば最近小学生や中学生も福祉の現場に実習にくるようになってたね。

客 保育園や学校も、障害児を受け入れるところ増えてきたって聞くけど。

客 子供の時から身近に障害を持つ人がいると、偏見や差別もなくなるし、自然に接することができるようになると思います。

客 福祉を大切にするには教育の現場から変えていく必要があるかも? で、どう? みんな厳しい現状ではあるけど、福祉の仕事は続けていきたい?

客 現場でなくてもいいから、福祉を係わっていききたい。いろいろ大変なこともあるけど、利用者さんに「あなたがいないと寂しい」と言われると、この仕事しなくて良かったと思うね。

客 自分の仕事を本当に評価してくれるのは、誰でもない利用者さん自身だよ。

客 「介護に雑用はない!」って言葉聞いたことがあるよ。

客 ああ、それ納得!

客 みんな人間が好きなんだ。だから介護の仕事が続けたいけるんだね。

客 なんだかんだ言っても、やっぱりこ